



ショートコメント

★★★★★

Data 2021-135

監督・脚本：キャリー・ジョージ・フクナガ
 出演：ダニエル・クレイグ／レア・セドウ／ラシャーナ・リンチ／ベン・ウィショー／アナ・デ・アルマス／ラミ・マレック／レイフ・ファインズ

007

ノー・タイム・トゥ・ダイ

2021年／アメリカ映画
 配給：東宝東和／164分

2021（令和3）年10月9日鑑賞

TOHO シネマズ西宮 OS

 みどころ

6代目ジェームズ・ボンド役を務めたダニエル・クレイグが、5作目（通算25作目）で挑む最後の強敵とは？愛妻（？）と共に引退後の生活を楽しんでいたボンドに突き付けられた、最後の任務とは？

米中対決は大問題だが、北朝鮮の相次ぐミサイル発射実験も大問題。しかし、ボンドがMI6に要請すれば、英国から最後の強敵へのミサイル発射は仕方なし！？いやいや、そんなはずはないだろうが、さて本作は？

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

◆山田洋二監督の『男はつらいよ』シリーズは1969年から始まり、合計50作が作られた。他方、1963年に第1作『007／ドクター・ノオ』が作られた『007』シリーズは、現在その半分の合計25作だ。ジェームズ・ボンド役は、①ショーン・コネリー、②ジョージ・レーゼンビー、③ロジャー・ムーア、④ティモシー・ダルトン、⑤ピアース・ブロスナン、⑥ダニエル・クレイグと変わったが、「フーテンの寅さん」は渥美清一人だから、すごい。

前作『007／スペクター』（15年）（『シネマ37』208頁）から6年ぶりに公開された本作のジェームズ・ボンドはクレイグの通作5作目だが、本作がフィナーレになるらしい。前作では、私の大好きなフランスの美人女優レア・セドウが、従来のボンドガールとは一味も二味も異なる、自立したボンドガール、マドレーヌ・スワン役で登場していたが、さて本作でのレア・セドウは？もっとも、今やジェームズ・ボンドはMI6を退職し、現役スパイを退いているから、“007”という“殺しのライセンス”はもはや不要。その代わりに、愛するマドレーヌとともにジャマイカで平和な日々を過ごしていたが・・・。

◆『007』シリーズには、世界中のファンが“公認”しているさまざまな約束ゴトがある。例えば、①世界を揺るがす凶悪かつ強大な敵の存在、②魅力的なボンドガールの登場、③MI6の責任者である“M”と秘密兵器開発担当者“Q”の登場、④任務の達成とハッピー

エンド、等だ。もちろん、ジェームズ・ボンドを演ずる俳優が6人も変わっているように、この約束ゴトも少しずつ変化しているが、基本枠は不動だ。かつては日本人女優・浜みえもボンドガールとして登場したが、当時はあくまでも“刺身のつま”的存在だった。しかし、本作ではマドレーヌがストーリー上重要な役割を担う一方、新たに007のコードナンバーを“襲名”した女性エージェント、ノーミ（ラシャーナ・リンチ）が登場するから、それにも注目！その他、本作の注目点はいろいろあるが、最大のそれは、ジェームズ・ボンドの死。ええっ！そんな設定にしていけない？『男はつらいよ』シリーズは渥美清の死亡とともに終わったが、ジェームズを殺してしまえば『007』シリーズそのものも終わってしまうのですが・・・？

◆本作のパンフは880円だが、内容は充実している。私は本作の評論を書くについて隅から隅までそれを読んだが、興味深いのはそこにストーリーの項目がないこと。そのほとんどのページを埋めているのは、各キャラクターを演ずる俳優たちのインタビューだ。ダニエル・クレイグが演じた過去4作①『007/カジノ・ロワイヤル』（06年）（『シネマ14』14頁）、②『007/慰めの報酬』（08年）（『シネマ22』88頁）、③『007/スカイフォール』（12年）（『シネマ30』232頁）、④『007/スペクター』（15年）（『シネマ37』208頁）のストーリー紹介はあるのに、なぜ本作のストーリー紹介がないの？

本作の公開はコロナ禍によって大幅に遅れたが、結果的にそれが「Hunger is the best sauce」効果を生んだらしい。そのため私が観たのは公開一週間後だったが、満席だった。そんな映画のストーリーをここで長々と紹介しても無意味なことは明らかだ。2時間44分の超おもしろい本作は、あなたの自分の目でしっかりと。

◆トランプ大統領が金正恩総書記との頂上会談を実現させたのには驚いたが、そんなネタをうまく使った問題提起作が、韓国映画『スティールレイン』（20年）（『シネマ49』320頁）だった。同作では、アメリカ、韓国、北朝鮮のトップ3人が北朝鮮の原子力潜水艦に監禁されてしまったから、さあ大変だ。他方、現実問題としては、北朝鮮のミサイルと核の開発は止まらず、ミサイル実験が相次いでいる。ミサイルの保有数はアメリカがトップだが、優秀なスパイ組織を持つイギリスだって、ミサイル能力は負けていない。

本作に登場する“最凶の悪”は、毒草を作っているサフィン（ラミ・マレック）。引退していたジェームズが、なぜそんな強敵と戦うことになるのかは、本作を見ればすぐにわかるが、本作ラストでは、ミサイル発射の可否が大問題として提起されてくるので、それに注目！より大きな害悪を排除するためなら、各国の了解がなくとも、ミサイルの発射はOK？いやいや、そんなことを容認したら、明日にでも某国から発射されるかも……。そんな面白さいっぱい本作は、あなた自身の目でしっかりと。

2021（令和3）年10月15日記